



広報誌

WINTER

か・け・は・と

こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

ホームページ <http://www.oikawahp.or.jp>

Eメール info@oikawahp.or.jp

NO.54 2025年01月 発行



撮影地：当院3階中庭

院長挨拶

及川 達司

Oikawa Tatsuji

新年あけましておめでとうございます。

私は実が生る植物を育てるのが好きで（実益も兼ねるので）我が庭（と言っても地べたはコンクリートですが）には所狭しとプランターや鉢植えが並び、人からはまるでジャングルだとの評価を得ています。手をかければかけるほど可愛くなるもので、我が子の様に私の愛情をたっぷり注いでいるつもりです。「今年の出来はどうですか？」と訊かれると「甘くできた」と胸を張ったり、「鳥につつかれた」と拳を握りしめたりするのですが、先日「今年は暑かったから」と答える自分がいました。

日本の植物はやはり日本の気候に合わせて育つものだと思います。育てる方も春夏秋冬に合わせ、種を蒔いたり収穫したり。なのに「過去に例のない」ほどの暑さ

が襲ってきたら、植物は経験がないのですから「あれっ？」と感じて十分な成長もできません。

「春一番」「夏休み」「秋の気配」「冬の稲妻」、昔は歌謡曲やフォークソングも季節感たっぷりでした。ところが年末の紅白歌合戦の曲目で季節が使われていたのはMrs.の「青と夏～ライラック」だけではなかったでしょうか。これとて私には未確認飛行物体でしたが。

日本の誇りは美しい四季、そこに咲く花、煌めく水の流れ、鳥の囀り、枯葉を踏みしめる音、そして風の声。これらは生まれながらに私たちの体の中に息づいている生命のリズムであり、生きている証でもあります。壊れてしまったものは簡単には元に戻りませんが、今を頑張っている大人たちのために、そして未来を託すこれからの大人たちのために、優しい四季を取り戻したい。

そう考えながら、私は明日も「子供たち」に水やりしているでしょう。

オレンジバルーン チーム



「緩和ケアって何?～緩和ケアをもっと身近に～」と決定し
 当院で治療されている患者さんやそのご家族に緩和ケアを
 知っていただこうと活動しました。
 活動内容は、昨年度同様にネイルケア講習と緩和ケアについての
 講座を行いました。
 ネイルケア講習は、「治療中でも楽しみをもって頂きたい」と
 入院している患者さんを対象にしました。参加者は、6名でした。
 ネイルをみんなで試し塗りする中、患者さん同士が会話する機会にもなり、
 普段の悩みなどを共有することができたようです。

～及川サロン ネイルケアのようす～



～おいかわカフェ 緩和ケア講座のようす～

緩和ケアについての講座は、8名の参加がありました。
 当院で治療している患者さんに緩和ケアをもっと知って欲しい」と
 当院で治療中の患者さんやその家族を対象としました。
 講座終了後のアンケートでは、「今までのイメージと違った」
 「とても身近に感じた」などたくさんの感想を頂きました。
 オレンジバルーン活動を始めて3年目となりました。
 「緩和ケア」を世の中に浸透させたい、診断された時から緩和ケアは
 受けられる、そして及川病院には緩和ケア内科がある事を知って欲しい
 という思いで活動してきました。
 これからも私たちは、「がん」と診断された方の身体の痛みや心の痛み、
 苦しみに寄り添える及川病院でありたいと思います。



ピンクリボン チーム



今年度も「今の行動で未来が変わる 受けよう乳がん検診」を
 キャッチコピーとして総勢27名で乳がん検診啓発活動を行いました。
 平尾で10月20日、六本松CLで10月6日に日曜検診を実施しました。
 昨年度好評だった乳がん検診講座を今年度は、警固にあるフランス料理店「ビストロラポーレ」さんで開催しました。
 女性だけでなく男性の参加者も多く、乳がん＝女性というイメージが強く女性に向けてのメッセージばかりに
 なりがちですが、男性参加者が身近な女性に伝えやすい内容を検討し、
 女性のみでなく男性に向けても乳がん検診の必要性をPRすることができました。
 また、10/28(金)にNPO法人ウェルサポさんとのコラボ企画コミュニティヘルス事業にも参加しました。
 乳がんや検診の説明だけではなく、もし自分が乳がんになったら、家族が乳がんになったら
 「何をかかえる?」「どんなサポートがほしい?」「仕事はどうする?」など
 いろんな立場の人とディスカッションができました。
 今回の活動を通し、乳腺専門病院のスタッフとして乳がん検診の必要性を多方面からアピールすることができ、
 この企画をきっかけに乳がん検診率向上につながる一助を担えたのではないかと感じています。
 今後も、乳がん検診率向上を目指し活動を続けていきたいと思ひます。



第22回日本乳癌学会九州地方会に参加しました 左から：及川副院長、和田師長、江崎看護部長

令和6年9月30日～10月1日に行われた第22回日本乳癌学会九州地方会に参加し「化学療法を受ける患者へ評価指標を用いた患者指導の取り組み」として当院のチーム医療を発表しました。

昨年度当院で初めて化学療法を受けた患者総数は87名で全体の27.5%が高齢者でした。化学療法を完遂するにあたり患者のセルフケア能力の評価はとても重要です。

初回の治療では決められた服薬ができるか、発熱や下痢による重篤な症状が回避できるか、いざという時に医療機関へ連絡ができるかなど、短い入院期間の中でセルフケア能力を評価し指導を行っています。乳腺外科病棟では担当看護師の経験などに左右されず高齢者のセルフケア能力を評価し、患者参加型の退院指導を行うため、IADL（手段的日常生活動作）やブリストル（便形状）スケールを用いた患者指導に取り組んでいます。

今回の学会では、この取り組みに関し医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャーなど多職種で関わった事例を報告しました。化学療法中の患者様は心も体も治療による負担は大きいものです。私たち医療者のチーム力を発揮し、今後も必要なサポートをより具体的に見出し介入できるよう取り組んでいきたいと考えます。



2024年8月から乳腺外科医師として当院に入職させていただきました小林美恵と申します。

院長先生をはじめとした当院スタッフ皆様とのご縁はおよそ12年前からとなります。

12年の間、当院で3年間、その後は広島県の広島大学病院、済生会広島病院、前任地の呉医療センターで2019年から約2年間は中東のカタール国で乳腺の基礎研究に従事してまいりました。

これまで多くの方々との出会いやさまざまな経験から自分なりの医師像、

どのように医療従事者として社会に貢献していきたいかがまとまってきたと感じております。

医療・看護・介護は患者の皆さま・ご家族が中心である、“patient-centered therapy”を大事にしております。

このpatient-centered therapyの概念は『患者さんの治療法を決めるのは、最終的に患者さんである』

と言われておりますが、治療法をご自分で決めるためには医療者との

双方のコミュニケーション（話し合い、質問、把握、理解）、

どのようにご自分の人生を過ごしていきたいか（アドバンス・ケア・プランニング：ACP）、

医療者との話し合いからどのような治療法を選択するか

（相互意思決定：shared decision making）などの

お一人お一人千差万別の多くの過程が必要となります。

これまで培ってきた多職種スタッフ間でのチーム医療の経験を生かして、

当院にご受診される地域の皆さまが安心してくださる

乳腺診療に従事してまいります所存です。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

小林美恵先生



With you kyushu 2024 ～あなたとブレストケアを考える会～

With you Kyushuは乳がん患者さんと医療者が一緒に悩みや不安について考えるというコンセプトで開催しています。今回は当院の及川将弘副院長が実行委員長を務めます。

日時：2025年1月26日（日）11：30～16：00

場所：福岡市男女共同参画推進センター アミカス

内容：1部 4テーマに分かれての学びの講演

「最新の再発乳がん治療」「乳房再建」「遺伝性乳がん」「食事」

2部 5テーマに分かれてグループワーク

「抗がん剤治療の悩み」「ホルモン療法の悩み」

「リンパ浮腫」「こころ」「再発」

この他、マジックショーやピアノコンサートもあり、参加者に楽しんでいただけるプログラムです。

毎年この時期に開催されますので、乳がん患者さんへお声掛けください。



及川病院 副院長

及川将弘先生

おせち料理のご紹介

及川病院のおせち料理をご紹介します。当院では九つの仕切りがあるお弁当箱を使用し、

様々なおせち料理を楽しんで頂けるようになっていきます。定番の紅白

なますや黒豆・数の子。博多のおせちに欠かせないがめ煮。

一風変わった里芋と海老の松風は、つぶした里芋に海老を混ぜて揚げ、

青のりをたっぷりまぶしました。また、将来の見通しが

良くなりますようにと蓮根のつくね焼き。軟らかく煮た

牛蒡をたたき、身を開いて一年の開運の縁起をかついだ

たたきごぼう。雑煮には博多雑煮にかかせないかつお菜

を入れて盛りだくさんなおせち料理となりました。



震度7を想定したBCP（事業継続計画）訓練

R6年12月27日（金）に災害発生時の初動訓練を行いました。

アクションカードを使って各部署が動けるのか、災害対策本部に必要な

情報が集まるのか、本部は集まった情報で医療継続のアセスメントが

できるのかなどを検証しました。実際に動いてみると、事前に何度も

検討したアクションカードでしたが修正が必要な箇所があったり、

本部に集まった情報が分かりやすいレイアウトになっていない、

クロノロを書くのに2人では時間がかかったなど課題となるものが

見えてきました。次回は広域災害救急医療情報システム（EMIS）に

DMAT要請や物資不足などの情報を入力する段階まで訓練できるよう

計画したいと思います。



医療法人にゅうわ会

及川病院

OIKAWA BREAST CARE HOSPITAL

乳腺外科 緩和ケア内科

〒810-0014

福岡市中央区平尾2-21-16

Tel:092-522-5411

Fax:092-522-6244



及川病院

六本松乳腺クリニック

OIKAWA ROFFONMATSU BREAST CARE CLINIC

乳腺外科

〒810-0044

福岡市中央区六本松4-2-2[六本松421]2Fクリニックゾーン

Tel:092-406-8172

Fax:092-406-8182